

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

### ②施設・事業所情報

名称：戸塚ほしの木保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：大石 昭子	定員（利用人数）：50名（54名）
所在地：〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町4790-6	
TEL：045-392-9973	
ホームページ： <a href="https://souaikai.jp/">https://souaikai.jp/</a>	

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日 2019年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 相愛会		
職員数	常勤職員：10名	非常勤職員：13名
専門職員	保育士 14名	栄養士 1名
	調理師 1名	
施設・設備 の概要	(居室数) 保育室5室、調理室1室、調乳室1室、 医務スペース1室、事務室1室	(設備等) 3階建ての独立した建物となっています。多目的 トイレ、エレベーターが完備されたバリアフリー の為、車いす等の利用も可能です。 乳児沐浴、おむつ交換台、幼児シャワーなど衛生 環境も充実しています。 3階には、専用屋外遊戯場（人工芝の園庭）があ り、大型遊具、水遊び用ポンプが増設されていま す。

### ③理念・基本方針

#### 法人保育理念：

子どもが幸せな社会の中で、いきいき成長していけるように、子どもの最善の利益を追求し、地域福祉の中心的役割を果たす

#### 保育目標：

- ①いきいきと遊ぶこども
- ②自ら考えて行動するこども
- ③友だちを大切にすること

#### 保育の基本方針：

☆いきいきっこを育てる、子ども主体の援助の保育

☆考える力を育てる豊富な遊び環境と、子どもが健康、安全で情緒の安定できる環境作り

☆地域社会のニーズに応える保育システムの充実と子育て支援

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

法人の理念である「子どもが幸せな社会の中で、いきいきと成長していけるように、子どもの最善の利益を追求し、地域福祉の中心的役割を果たす」に基づいて保育を提供しています。子ども一人ひとりを尊重し、子どもの主体性を育む保育を通じて、子どもが受容されることで満足感や安心感を持って過ごすことができるよう支援を行っています。

保育実践では、その日の活動計画にこだわらないで、子どもの意見や希望で柔軟に計画を変更したり、みんなと同じ事をやりたい子どもとやりたくない子どもは分かれて活動することを尊重し支援するなど、子どもの気持ちや興味を大切にしています。

- ・考える力を育てる楽しい遊び環境の充実
- ・「やってみたい！」が実現できる環境づくり
- ・本物に触れ、全身で感じる保育
- ・基本的信頼関係を築く担当制の乳児保育
- ・応答的保育の実践
- ・楽しい食事を中心とした保育

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年4月12日(契約日)～2021年12月3日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回

#### 【事業所の概要】

戸塚ほしの木保育園は、JR東海道線、横須賀線、横浜市営地下鉄の戸塚駅から徒歩5分ほどで、駅から国道1号線を渡った飲食店などが立ち並ぶ「裏戸塚商店街」の中に立地しています。

園は長崎県に本部を置く社会福祉法人相愛会によって2019年4月に設立されました。長崎県にある系列園の他、関東地方では横浜市内に2園あり、東京都内にも設立の予定があります。

園舎は3階建てで、日当たりのよい3階に人工芝を敷き詰めた園庭を設け、子どもが好きな遊びを選べるような遊具を用意し、思い切り体を動かせるような工夫がされています。園舎内は大きな窓を配し明るい雰囲気、子どもが興味を持ってやりたいことを尊重しながら、安全性を確保するためにレイアウトや動線を工夫した設計になっています。

本年10月から散歩と系列園との交流に利用を限定した園バスを導入し、子どもの活動の充実を図っています。定員は50人(生後57日～就学前)、開園時間は、月曜日～土曜日7時～20時です。

#### ⑥総評

##### ◆特に評価の高い点

##### 1. 子どもの主体性を育む保育を実践しています

保育室は複数のコーナーで分けられ、コーナーごとに玩具が用意されています。子どもの好みや特性に合わせて静かに過ごせるスペースや、1人の子どものやりたいことが、他の子どもの活動に影響しないよう手作りのコーナーを設置するなど工夫されています。その日の活動は子どもの希望を聞いて柔軟に計画を変更し、子どもの尊重されることでの満足感につなげています。天気の良い日は毎日散歩に出かけますが、出かけたくない子どもは保育室や園庭で遊べるよう職員を配置しています。給食は全部食べ終わらなくても、欲しいものはおかわりすることができます。

子どもが様々なことに興味を持てるよう保育室は複数のコーナーに分け、それぞれに多様な玩具を用意しています。園庭は裸足でも遊べるよう人工芝生を敷き詰め、ジャングルジム、スラックライン(細いベルト状のラインの上でバランスを楽しむ遊び)のロープを使って子どもがぶら下がり遊ぶことができるように工夫した遊具、水を流せる設備、三輪車や四輪車のほか、本年度は駆け上がって遊ぶことのできる小さな築山を増やし、子どもは思い思いに好きな遊びを選んでいきます。

子どもに注意を促すことが必要な場面では、「どうしてこうなったの」「どうしたらいいかな」と声をかけ、大人が教えるのではなく、子ども自身が考えて答えを導き出せるよう支援しています。

## 2. その日の子どもの様子を毎日保護者と共有しています

保育中の子どもの様子は写真に撮ってドキュメンテーション（写真等を用いた保育記録）として保護者へ配信しています。写真は保護者が見たいことを想像し何枚も撮って選別し、エピソードなどコメントを添えています。また、毎月保護者へ渡している成長記録にも写真を用いることで子どもの表情や周りの環境などを見てもらうことができ、言葉だけでは伝わり難いことも伝えることができます。

## 3. 事務作業を ICT 化し、作業の効率化に取り組んでいます

朝の子どもの受け入れ記録と子どもの人数確認の記録以外は、すべて端末を活用して記録をデータ化しています。ドキュメンテーション（写真等を用いた保育記録）やラーニングストーリー（子どもの育ちや経験を写真や文章などの見える形で記録するもの）を活用して、記録を最大限生かした取り組みを行っています。保護者への子どもの情報提供のほか、保育の振り返りでも写真を確認することでシチュエーションが明確になって効果的な検証や反省につなげています。また、職員間、クラス間での情報共有も効率的に行っています。

### ◆改善を求められる点

#### 1. 中長期計画、年度計画、事業実施計画を連動させて作成することが望まれます

中長期計画には保育理念や保育方針など園が目指すことを示していますが、着手時期、実施期間、望ましい成果、方向性が明確になっていません。単年度計画では1年間で実施する事業が示されていますが、中長期計画との関連性を確認することが難しい内容です。今後は、計画ごとに役割を見直すとともに、中長期計画、単年度事業計画、実施計画の流れやつながりを意識した計画の作成方法の確立が望まれます。さらに、計画を評価し改善や修正を行う体制づくりも期待されます。

#### 2. 職員を適正に育成するために、明確な仕組みを構築することが望まれます

職員の育成は、職員一人ひとりに応じた研修や OJT を通じて行い、法人作成のセルフチェックシートを基に自己評価を行っています。しかし、園長など他者によって確認する仕組みがないため、客観的な評価にはなっていません。また、ステップアップの方向性が明確でないため、職員の育成がその時々判断で行われています。今後は、目標管理を活用して職員一人ひとりが自己のスキルを客観的に理解し、課題を踏まえてスキルアップに反映することが求められます。さらに大きな枠組みとして、目標管理を通じて具体的な取り組みにつなげるよう、キャリアパスの仕組みの構築が望まれます。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

このたび、初めての第三者評価受審となりました。開園3年目を迎え、この3年間で振り返ると共に、これから目指すべき運営、保育の指標となるものを明確化する良い機会となりました。また、保護者アンケートを通して、沢山のご家庭にご理解をいただいていることを知り、改めて御礼申し上げます。今後の保育を更に研鑽し、より良い保育を提供することで還元できるよう邁進して参ります。

自己評価を行う中で、事業内容や園独自の取り組み等の発信や可視化することの必要性を感じ、職員間での話し合いや疑問点、改善に向けての意見交換が活発に行われ職員一人ひとりの意識に変化が見られ、意欲が高まったと感じております。

保育内容については、高い評価をいただき、職員の更なる保育向上への励みとなりました。

子ども一人一人の「今」に向き合い、適切な援助ができていのか、個々の気持ちに寄り添っているのか自問自答しながら、「子どもの最善の利益」を常に念頭におき、追求する保育に努める保育士にとって自信となりました。今後は、更に現状把握や時代の変化、社会の動向に目を向け、子どもたちが生涯に渡り幸せであることを願う保育者でありたいと思います。

一方、改善を求められる点については、園独自の中長期計画を基に事業計画を作成し、着手時期や実施期間、成果、方向性が具現化されたものとなるよう職員参画のもと作成に当たるよう見直していく必要があると感じています。

また、職員育成については、具体的な目標管理を行うことで、職員一人ひとりが目指すべきスキルを明確にし、モチベーションや更なる保育の質の向上につなげていく取り組みの仕組みを作っていくよう、法人全体での協議を行いたいと思います。

最後に評価委員の方々には、短い時間の中、保育園の取り組みや保育内容について、職員の思いを汲み取っていただき心より感謝申し上げます。ヒヤリングの中でいただいた改善に向けてのアドバイスは、すぐに法人内で共有し今後の課題として前向きに取り組む体制をつくる一歩が踏み出せました。

評価というマイナスなイメージが「今していることの意味付け、更に向上していく為」というプラスのものに変換できたように思います。ありがとうございました。

戸塚ほしの木保育園  
園長 大石昭子

### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり